

# FINANCIAL SERVICES

## 金融サービス事業



新技術を活用して収益性を高めるとともに、デジタルアセット関連事業とのシナジー創出により既存の顧客基盤を拡大

### 主要企業

中間持株会社：SBIファイナンシャルサービシーズ

SBI証券  
 SBIリクイディティ・マーケット(SBI LM)  
 SBI FXトレード(SBI FXT)  
 SBIマネープラザ  
 SBIベネフィット・システムズ  
 SBI BITS  
 SBIジャパンネクスト証券  
 住信SBIネット銀行  
 SBIインシュアランスグループ(保険持株会社)  
 SBI損保  
 SBI生命  
 SBIリスタ少額短期保険  
 SBIいきいき少額短期保険  
 日本少額短期保険  
 SBI FinTech Solutions  
 SBIレミット  
 SBIソーシャルレンディング  
 SBIビジネス・ソリューションズ  
 SBI Ripple Asia

### 金融サービス事業における 主要事業の通期税引前利益(IFRS)

(百万円)

	2017年3月期	2018年3月期
SBI証券及びFX事業(SBI LM、SBI FXT)、SBIマネープラザの単純合算	40,752	54,125
住信SBIネット銀行※	3,185	3,770
SBIインシュアランスグループ及びその傘下企業の単純合算	1,881	2,263

※持分法による投資利益(資産の評価基準など、IFRSと日本会計基準とは相違があるため、日本会計基準での利益水準と異なります。)

### 2018年3月期の主な取り組み・今後の重点戦略

#### 証券関連事業

- 金融法人部を通じて地域金融機関との連携を強化し、地方債や公共債の新発債引受業務が拡大
- 投資銀行部を設立し、資金調達・事業コンサルティングのほか、M&Aに関する各種サービスを提供
- iDeCo分野の更なる拡大を目指し、2017年5月からiDeCoの運営管理手数料を完全無料化
- NISAにおける新規顧客の獲得により順調に顧客基盤を拡大し、投資信託積立設定額は2018年2月に月間100億円を突破

#### 銀行関連事業

- 積極的なAPI公開を通じ、SBIグループ投資先FinTechベンチャー企業等のサービスとの連携を拡大し、若年層をターゲットとした自動貯金サービスやおつりを使った資産運用サービスを提供
- 住宅ローン事業においては、販路拡大により取扱額は順調に拡大
- 新クレジットカード「ミライノカード」の募集を開始
- RPA(Robotic Process Automation)導入による業務効率化を推進

#### 保険関連事業

- 保険契約件数の伸びに貢献している「SBI損保の火災保険」は、グループシナジーを追求するとともに地域金融機関の住宅ローンへの導入を積極的に推進
- SBI生命において新たに団体信用生命保険の販売を開始し、地域金融機関での採用が決定
- 少額短期保険事業は、ペット保険など商品ラインナップを拡充し順調に事業規模を拡大

## 最先端技術の導入によって 収益機会の拡大を目指す

SBIグループでは、投資先企業等と共同で最先端技術を活用した金融サービスの拡充を図っています。

SBI証券においては、ウェルスナビ(株)が提供するロボアドバイザーサービスをカスタマイズした「WealthNavi for SBI証券」を提供しており、本サービスの規模は順調に拡大しています。また、ブロックチェーンでは、日本アイ・ビー・エム(株)と債券の業務プロセス等における金融市場インフラへの適用可能性の検証を始めており、AIでは日本電気(株)と株式等の売買審査業務への適用に向けて実証実験を始めているほか、(株)ダブルスタンダードが提供するAI搭載のOCR(光学式文字読取システム)を用いた顧客管理業務を開始しました。

住信SBIネット銀行においては、住宅ローンの審査におけるAIの導入や、顧客対応にAIと有人対応をシームレスに切り替えられるハイブリッド型チャットサービスを試験導入しているほか、AIを用いた金融機関向け審査サービスの創出に向けて(株)日立製作所と共同で検討を始めています。国内銀行として初となるAPI(Application Programming Interface)公開を開始した同社では、投資先企業等との積極的なAPI連携により、若年層をターゲットにした資産運用サービスを次々に提供しています。

保険事業では、SBI損保がダイレクト損保初となるASV(先進安全自動車)のリスク軽減効果を評価する「セーフティ・サポートカー割引/ASV割引」の新設に加え、業界初となるLINEアプリを活用した自動車保険証券画像による簡単見積り受け付けを開始しています。その他にもテレマティクス技術などのIoT分野や自動運転に関わる技術を活用し、個人のリスクや特性を反映した保険料が算定されるパーソナル保険の開発を推進しています。SBI生命では、保険加入へのインセンティブや加入者への疾病予防推進の取り組みとして、全保険加入者を対象にモバイルヘルスに特化したテクノロジーベンチャーである(株)FiNCと共同開発した健康管理アプリを提供しています。加えて、ベンチャー企業などとも協業して健康状態に合わせて保険料が設定できる新しい保険商品を開発中です。また近畿大学と、日本で業界初となるがんゲノム解析とAIを組み合わせた研究を進めています。

このように最先端技術を活用して、顧客便益性の高い商品・サービスを継続的に開発し、提供することで、各事業における収益性を高めていきます。

## 業界横断的なコンソーシアムの 立ち上げにより金融業界を牽引

最先端技術をSBIグループ内で活用するだけでなく、それらを業界横断的に活用しようとする取り組みにも注力しています。次世代の送金基盤を開発する米Ripple社との合弁会社であるSBI Ripple Asiaが事務局を務める「内外為替一元化コンソーシアム」では、外国為替に加えて内国為替も一元的に扱う送金プラットフォーム「RCクラウド2.0」の送金実験を完了させ、「RCクラウド2.0」に接続するスマートフォン向け送金アプリ「Money Tap」を2018年3月に開発しました。同送金サービスは、住信SBIネット銀行、(株)りそな銀行、スルガ銀行(株)の3行で先行して試験運用を開始し、2018年夏以降での実用化を目指しています。

この「内外為替一元化コンソーシアム」に加えて、SBIグループでは金融業界全体での分散台帳技術ならびにAIなどの先進技術の活用を推進しており、クレジットカードにおける仮想通貨発行やポイント管理、KYC(本人確認)や不正取引の共有・防止等での活用を目指す「カードコンソーシアム」、KYCの標準化やマネーロンダリング対策(AML)等での活用を目指す「証券コンソーシアム」を2018年に設立しました。このような業界横断的な取り組みを推進することで、金融業界全体での顧客便益性の向上と業務の効率化に貢献します。

## デジタルアセット関連事業とのシナジー追求により 金融サービス事業各社の顧客基盤を更に拡大

2018年6月より仮想通貨の現物取引サービスを開始したSBIバーチャル・カレンシーズでは、グループ内外とのシナジーを徹底的に追求し、短期間での収益化を目指しています。

仮想通貨取引を行う顧客は20代~40代で85%を占め<sup>\*</sup>、SBIグループの顧客層に比べて相対的に若い世代が多くを占めていることから、デジタルアセット関連事業と既存の金融サービス事業間のシナジーを徹底追求し、若年層を中心とする新たな顧客層を送客することで、金融サービス事業各社の顧客基盤を飛躍的に拡大させることが可能になるのではないかと考えています。

※一般社団法人日本仮想通貨交換業協会調べ(2018年3月現在)